

## 三年目を契機におこなった輸血関連情報カードの運用改善報告

◎水野 友靖<sup>1)</sup>、井上 誠也<sup>1)</sup>、川島 大輝<sup>1)</sup>、宮木 祐輝<sup>1)</sup>  
小牧市民病院<sup>1)</sup>

## 【はじめに】

当院では2020年7月より臨床的意義のある不規則抗体を保有する患者に対し輸血関連情報カード（以下、カード）を発行し、その説明は臨床検査技師が担ってきた。今回、運用開始後に浮かび上がった課題や問題点について、運用開始後3年を契機に見直し実践した内容について報告する。

## 【開始時の運用】

カード記載内容は臨床的意義のある不規則抗体に限定し、運用開始後に不規則抗体検査を実施した患者を対象とした。説明は外来受診時に実施。患者にとってわかりやすい説明となることに加えて、技師間による説明内容の標準化を目的とし、カード及び説明文書以外にPowerPointを用いて説明している。

## 【課題】

開始時の運用では、以下の課題・問題点があった。  
DARA投与患者や移植患者はカード対象としていない。説明を外来に限定しているため、退院され一度も当院を受診しない患者や日本語でコミュニケーションがとれない患者

への対応ができていない。他院発行カードの提示を受けた際の輸血対応が明確でない。

## 【対応】

2023年4月よりカード対象者をDARA投与患者・移植患者・稀血患者にも対象を拡大した。同年10月までにDARA投与患者12名に説明を実施した。日本語でコミュニケーションがとれない患者に対応するため、簡潔な説明文書の外国語版を作成した。他院発行カードの提示を受けた際の輸血対応について、輸血部門内で協議し、輸血検査マニュアルに対応を明記した。転院等により退院後一度も当院を受診しない患者の割合は、死亡退院を除くとカード対象者のうち9%を占めている。今後は退院後に当院未受診患者への説明実施率を向上させるために、説明対象場所を入院中患者にも拡大し、病棟での患者説明も検討していきたい。

連絡先：0568-76-4131（内線3118）